



月刊 千葉動力車労働

全動力車集会圧倒的に成功 乗務員

一五〇の名が結集し、動乗勤攻 撃粉碎、スト貫徹誓う

11月18日、江東区総合区民センター

十一月十八日、十三時から、江東区総合区民センターにおいて、動労千葉、動力車労働組、動労水戸、動労西日本、国労の仲間など一五〇名が結集して熱気あふれる中、「全動力車乗務員集会」が開催され、今次動乗勤改悪攻撃で全ての動力車乗務員の反対の声を押し切り、セクト的延命のために裏切り妥結を策すJR総連革マル松崎に対して、現場からの怒りと反対の声を叩きつけ、「動労」の戦闘的精神を守りぬき闘いに立ち上がることが圧倒的に確認された。

洋動労千葉委員長から動乗勤改悪攻撃の本質、分裂・瓦解の淵に立つJR総連革マルの危機などが語られ、二二日の動労千葉のストライキをはじめあらゆる闘いでJR総連打倒へ立ち上がることが強く訴えられた。(発言要旨別掲)

さらに、動労西日本、動労水戸、動労千葉、国労の仲間二名、動力車労働組からそれぞれ闘う決意が改めて明らかにされた。

最後に、呼びかけ人の吉田委員長の音頭で団結ガンパローを三唱し、大成功のうちに集会を終了した。

11・22ストライキ貫徹へ総決起しよう。



動乗勤改悪粉碎、JR総連打倒へ決意も新たに立ち上がることを誓い、力強く拳を突き上げる参加者 (11月18日、江東区総合区民センター)



吉田 幸男 動力車労働組委員長

動乗勤が大詰めを迎えている。これにはすべての乗務員が「反対だ」ということをアピールしようというところでの集会の呼びかけを行った。

八五年八月二七日に組合を結成し、分割・民営化を経験して組合は何をすべきかしっかりと見極めなければならぬと感じた。大きな労働組合でも何やららない組合は何の価値もない労働組合だ。清算事業団やJR内部でも差別・選別が行われた。しかし、様々な運動を展開し、今や労働委員会において一〇〇以上の勝利命令をかちとっている。このことだけでも当局と五分にやっけてきているし、当局を押し込む寸前まで追込んでいる。

安全問題では、今あちこちで事故が頻発している。職場では必ず運転事故情報が出ている。ここで問題なのが、われわれがいくら反対しても東鉄が片仕切りを行えば当局が業務命令で一方的にやってくるのだ。

まず、大アピールを行うべきだ。動乗勤改悪やウルトラな合理化はのめないということを全体で確認していただきたい。



中野 洋 動力車労働組委員長

十八年間ハンドルを握っていない私でもこの動乗勤は腹が立った。この制度は、動力車乗務員という名前・考え方をけしてしまふことである。しかし、乗務員というのは一瞬のミスも許されず緊張を強いられ、へたに事故を起こせば手錠をはめられ刑務所にいれられてしまう。だから今まで「動力車乗務員」と言ってきたし、勤務もそれなりに仕組みができていた。それを今回全部潰してしまうというのだ。

何故ここまでやってくるのか。二一世紀には鉄道収入と関連事業の収入を二対一にするという。あと八年から九年の間に関連事業をいくつも造り、そこへ鉄道部門五万人で生みだされた人を投入していく。これを毎年少しづつやるのではなく、来年三月で大枠が決まってしまうのである。その意味では「第二の分割・民営化」的労働強化を伴う大合理化攻撃である。その中心は①自動改札機の導入、②検修・施設等のOA化、③そして最大の中心軸が動乗勤を無くすということだ。もうひとつ、政治的側面がある。この動乗勤問題は、松崎をも直撃している。するとどこを基盤にするかという旧動労勢力だ。しかし、西や東海と違うのは動労千葉、動力車労働組、動労水戸、動労連帯がいるということだ。つまり、JR体制が大きくゆるぎ始めてきている。今こそみんな怒らなければならない時だ。二二日のストライキで東鉄労をゆさぶってやろう。そして、旧動労勢力を再建していこう。



水野 正美 動力車労働組委員長

動労総連合が八六年十一月に結成したとき、分割・民営化にさいして、労働者を敵に売り渡す動労・松崎の制圧の下にわれわれの運命を委ねるのではなく、苦しく厳しい状況があるうとも自らが立って闘う、こういう決意で決起した。

今回の動乗勤改悪で、先ず問題のひとつは、乗務員が定年まで働くことができなくなることだ。その先が出向だ。もうひとつは、動力車乗務員だけで終わるのではなく、全職種に拡がることははっきりしている。われわれは、JRに働く全ての労働者の共通の課題として闘いぬかなければならない。さらに、この動乗勤問題がJR総連を直撃しているということだ。JR総連の中にもこの問題は我慢できないという人がたくさんいる。

東日本がやろうとしている労働者を抹殺するような攻撃に対して思いを同じくする人たちがこの一点にかけて共同して立ち上がる時期に来ている。

動乗勤改悪粉碎を掲げて切り込めば必ずJR総連をガタガタにすることができよう。今日から来年三月に向かって全力で闘いぬこう。